

データの力を社会の力に！



一般社団法人 **社会基盤情報流通推進協議会**

Association for Promotion of Infrastructure Geospatial Information Distribution

アーバンデータチャレンジ (Urban Data Challenge : UDC) とは

Urban Data Challenge 2016



「アーバンデータチャレンジ (UDC)」は、地域課題の解決を目的に、地方自治体を中心とする公共データを活用した年間のイベント開催を伴う一般参加型コンテストです。2016年度は30の地域拠点 (都道府県ブロック) を活動の核としながら、地理空間情報の流通や利活用を日本各地でさらに促進する予定です。私たち「一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 (AIGID)」は、2013年度からUDCの活動を開始し、コンテストに向けたディスカッションやオープンデータを用いた地域課題解決の事例報告等のワークショップ等を通じて、オープンデータやビッグデータの整備・利活用、データを活用した地域課題の解決に取り組んでいます。

【UDCの目指すところ】

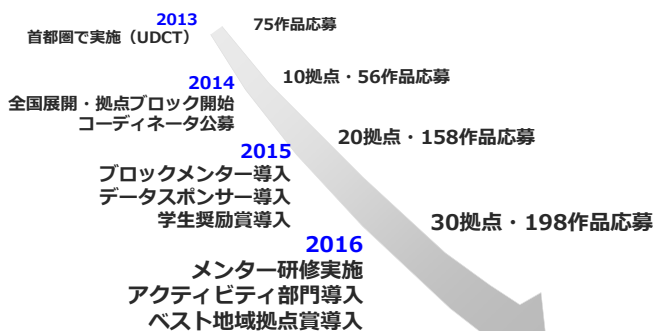
「地域の課題の解決」：PDCM

- (1) **Place** : 各地域のキーパーソン・場 地域拠点での年間を通じた活動や経費補助
- (2) **Data** : 地域に関わるオープンデータの 流通を質・量ともに増やすこと
- (3) **Collaboration** : エンジニア・デザイナー・専門知識を持った方々による「多様な」連携
- (4) **Mentorship** : 社会基盤情報・オープン データ利活用の第一歩に向けた支援

活動内容

コンテストの開催

オープンデータ等を積極的に活用した、地域課題の解決に効果的なツール・アイデア・データセット等を募集するコンテストを開催しています。応募作品は年々増加し、2016年度は198作品の応募がありました。



地域拠点活動

全国各地で地域拠点コーディネーターが中心となってアイデアソンやハッカソン、まち歩きイベント等を開催し、地域の課題の発掘や、課題解決のためのアイデア創出、ツール開発を行っています。



データ提供サイト

主にクリエイティブ・コモンズライセンスで提供されている地方自治体のオープンデータを調査し、データ提供サイトで提供しています。調査過程で作成したオープンデータリストも、オープンデータとして公開しています



全国にシビックテック普及！

他団体タイアップ

強力なデータ提供・支援拠点とタイアップし、データ活用推進イベントの開催、コンテストに向けたデータ提供等を行っています。



国立国会図書館デジタルコレクション等のデータを使ったWS開催

経路検索条件などデータ提供、データを使ったWS開催

NAVITIME



オープンガバメント推進協議会

地域拠点としての参画、コンテストにおける特別賞の設置

<HP> <http://urbandata-challenge.jp>

<FB> <https://www.facebook.com/UDCT2013>

【お問合せ】アーバンデータチャレンジ事務局 udc-office@aigid.jp

これまでのUDC

Urban Data Challenge 2013

地域課題の解決を目的としたデータ活用コンテスト、アーバンデータチャレンジは、2013年に始まりました。初年度となるUDC2013では、防災や観光をテーマとしたワークショップを開催し、コンテスト作品応募に向け、活発な意見交換が行われました。

地域拠点数： - 作品応募数： 75
受賞作品（金賞のみ紹介）
アプリケーション部門：AED SOS
データ部門：平成25年4月～11月八王子市内侵入窃盗データ
アイデア部門：直感的な避難誘導

Urban Data Challenge 2014

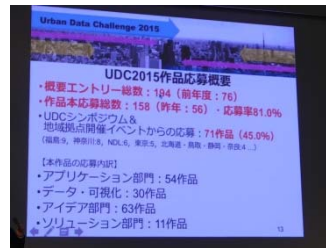
活動を東京・首都圏に限らず日本全国に広げることとし、地域拠点の制度を導入しました。UDC2014では、全国10箇所の地域拠点を中心に、課題の発掘・解決に取り組むことになりました。

地域拠点数： 10 作品応募数： 56
受賞作品（金賞のみ紹介）
アプリケーション部門：さっぽろ保育園マップ
データ部門（銀賞）：水戸中心商店街マップ オープンデータ化
アイデア部門：ジジババウォッチ
ソリューション部門：室蘭LocalWiki、5374（ゴミナシ）.jp

Urban Data Challenge 2015

地域拠点数も20に増え、自治体によるオープンデータの公開も活発になってきました。UDC2015では、メンター制度の導入や拠点ネットワーク会議の開催など、主役である地域拠点が、より主体的に活動を行えるようにしました。活動の広がりに伴いコンテスト応募作品数も大幅に増加しました。

地域拠点数： 20 作品応募数： 158
受賞作品（金賞のみ紹介）
アプリケーション部門：北海道統計データ閲覧ツール SESEKI
データ部門：交通量計測器TRAPO
アイデア部門：陣痛ダイアリーによる男女共同参画社会を目指す KODOプロジェクト
ソリューション部門：写真で紐解きたまがわ、会津若松市空間位置情報付き写真データの整備と普及



Urban Data Challenge 2016

UDC2016では、地域拠点数も30となり、地域の取組みも、より個性的になってきました。中間報告会では、お土産を持ち寄り、地域の魅力を活動とともにPRし、地域間の交流の場を設定しました。また、模範となる取り組みをする拠点を表彰する、地域拠点賞の制度を導入し、新人賞に岐阜ブロック、ベスト地域拠点賞に石川ブロックが選ばれました。

地域拠点数： 30 作品応募数： 198
受賞作品（金賞のみ紹介）
アイデア部門・アプリケーション部門：該当なし
アクティビティ部門：のとノートアローン
データ部門：パーソナルデータからオープンデータへ
～住民基本台帳を匿名加工しオープンデータに！！～



Urban Data Challenge 2017

アーバンデータチャレンジもいよいよ5年目。地域拠点も40となり、全国展開を着実に推進するだけでなく、地域拠点内での横展開の強化など既存拠点の活性化にも力を入れています。また、拠点活動の資金面のサポートとして、スポンサー制度を導入します。

UDC2017の予定

2017/7/3 (月)	キックオフシンポジウム	2017/12/22 (金)	概要締切
2017/11/24 (金)	中間報告シンポジウム	2018/1/26(金)	作品締切
		2018/2/24 (土)	最終審査会

Mapped by CARTO
<http://bit.ly/udc2017map>

2017年度、地域拠点は40へ！

